



Data

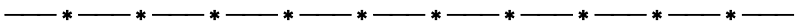
監督: チョ・ Cholヒョン
出演: ソン・ガンホ/パク・ヘイル
/チョン・ミソン/キム・ジ
ユンハイ/チャ・レヒョン/
タン・ジュンサン

👁️👁️ みどころ

徳川幕府は14代、265年だが、朝鮮国の李王朝は27代、518年も続いた。その中で燕山君と光海君が“ワル”として人気だが、NO.1 はやっぱり1万ウォン札の肖像画として使われている4代・世宗。彼の最大の功績はハングルの創造だ。あの時代の朝鮮語って、一体どんな言葉？

文字には表意文字と表音文字がある。私は表意文字の漢字の方が好きだが、世宗はなぜ究極の表音文字を目指して、「訓民正音」を残したの？

本作から学ぶものは多い。こりゃ必見！



■□■燕山君も光海君も大人気だが、やっぱり世宗がNO.1■□■

華流（中国）の「歴史ドラマ」は『三國志』をはじめとして王朝と皇帝の物語が面白いが、韓国の「歴史ドラマ」は、李王朝の時代のみ。徳川幕府は、徳川家康から第15代将軍・徳川慶喜まで（1603年～1868年）265年間も続いたが、朝鮮の李王朝はそれ以上で、李成桂の太祖から純宗まで（1392年～1910年）518年間も続いた。朝鮮王朝には27人の王がいたが、その名前に「君」がついているのは10代目の燕山君と15代目の光海君だけ。そして、燕山君は『王の男』（05年）（『シネマ12』312頁）で、光海君は『王になった男』（12年）（『シネマ30』89頁）で主人公にされる等、“ワル”として大人気だが、やっぱり韓国の王様の人気NO.1は第4代の世宗。その人気は、1万ウォン札の紙幣の肖像画として使われていることを見れば明らかだが、それは一体なぜ？

彼の人生はTVドラマ『龍の涙』（08年～11年）等でも有名だが、何と言っても彼を有名にしたのは、ハングルの創設者としてだ。

■□■世宗はなぜ名君？その最大の功績は？■□■

NHK大河ドラマ『青天を衝け』では、吉沢亮演ずる主人公・渋沢栄一の動きも気になる

が、目下の注目点は、父親の水戸光圀を始め、福井藩や薩摩藩などから「次期将軍に！」と期待されている、草薙剛演ずる徳川慶喜の動き。周囲の期待に反して、彼は将軍職への意欲の無さを明確にしたが、その後、13代将軍・徳川家定から“大老”に抜擢された井伊直弼によって、尊王攘夷派は弾圧されてしまったから、アレレ・・・。

そんな徳川幕府の混乱に比べて、15世紀の李王朝第3代国王・太宗の3男だった世宗は、王位に就くはずではなかったのに、優れている世宗に王位を継がせたいと考えている父親の気持ちを察した兄2人が王位を譲ったため、若くして即位できたからラッキー！確かにそのとおりだが、世宗の最大の功績は、ハングルを創造し「訓民正音」を制定（1446年）にしたことだ。李王朝時代に支配層が信奉していたのは儒教。朝鮮半島では朝鮮語が使われていたが、それを表現する文字がなかったため、知識層は漢字を使っていた。しかし、漢字だけですべての朝鮮語を表現することはできないため、漢字の音だけで朝鮮語を表す吏読（イドウ）という方法がとられていたが、当然一般の庶民は難しい漢字を読むことができなかった。

本作に登場する世宗は即位後30年近くになっていたが、モノの本によれば、世宗は若くして即位するとすぐに、全国から優れた人材を集めて集賢殿という役所をつくり、さまざまな開発にあたらせたらしい。したがって、世宗の名君ぶりは、さしずめNHK大河ドラマ『篤姫』（08年）で高橋英樹が、『西郷どん』（18年）で渡辺謙が演じた、薩摩藩の名君・島津斉彬のようなものだ。世宗はハングルを作ろうと長年努力したが、糖尿病などの持病に悩む年になっても、その完成はなお遠かったらしい。そのため、本作導入部では、かんしゃくを起した世宗がそれまで蓄積してきた信頼をすべて捨ててしまうようなシークエンスが登場するが・・・。

■□■知らなかったなあ！儒教が圧倒的に支配！仏教は冷遇！■□■

聖徳太子のドラマや大化の改新のドラマ、また鑑真や遣唐使のドラマでは、日本がいかにも仏教を大切にしていたかが描かれる。しかし、本作を観ていると、世宗時代の朝鮮半島では儒教が圧倒的に支配しており、仏教は冷遇されていたことが、これでもかこれでもかというくらい描かれるので、それに注目！知らなかったなあ、そんな事実は・・・。

本作で世宗を演じたソン・ガンホは、『パラサイト 半地下の家族』（19年）（『シネマ46』14頁）でも大活躍した名優だが、本作における仏教の僧侶・シンミ役のパク・ヘイル、王妃役のチョン・ミソンも超演技派！この3人の共演は『殺人の追憶』（03年）（『シネマ4』240頁）以来だ。『殺人の追憶』では、パク・ヘイルが4年制大学卒で英語もオーケーのインテリ刑事を、ソン・ガンホがたたき上げの地元警察の刑事を演じて常に対立していたが、それは本作でも同じ。つまり、儒教を重んじ、仏教を冷遇する李王朝時代の政策をそのまま推進している世宗と、強い信念を持った仏教の僧侶であるシンミは最初から“水と油”の相容れない関係だった。しかし、後述のように、シンミが「大蔵経」に通じていることを知り、更に、それがすべての民が容易に読み書きできる文字の創造を目指す世宗の理想

の実現に役立つことを知ると、いつの間にか2人の仲は・・・？

世宗は廃仏政策を行い、仏教の宗派を禅教の2宗派に統合し、18ヶ寺を除いてすべて破却するなどしたそうだが、日本では孔子を開祖とする儒教と、釈迦の教えを伝える仏教が対立することなく共存した。しかるに、なぜ李王朝の時代は儒教と仏教は対立していたの？そんな大テーマと共に、新しい文字の創造を通して、それまで敵対していた世宗とシンミが同志のような関係に結び付いていく人間ドラマをしっかりと確認したい。

■□■大蔵経ってナニ？当時の朝鮮国と日中との関係は？■□■

『パラサイト 半地下の家族』では、導入部で主人公たち4人家族が住んでいる「半地下」住宅にビックリさせられたが、本作導入部では日本の仏教徒が世宗に対して、「大蔵経の“原版”を日本に譲って欲しい」と懇願するシークエンスにビックリ！大蔵経って一体ナニ？日本の仏教徒は、なぜその原版の頂戴を世宗に求めたの？

現在の朝鮮半島は、朝鮮戦争後も南北分断状態が続いているから、日中と北朝鮮、韓国との関係はより複雑化している。しかし、朝鮮国と日中との関係が複雑だったのは、世宗の時代も同じ。朝鮮国が宗主国たる中国にいかんが気を使いながら政権運営をしていたかは、本作における大蔵経を巡る議論を聞いているとよくわかるが、そこでも顕著なことは、朝鮮半島（＝李王朝）における儒教の支配と仏教の冷遇だ。漢字の使用は中国から強制されたものではないが、世宗のように新しい文字を創造するために漢字の使用を止めたりすれば、中国からの圧力は？さらに、その開発のために、従来から重用している儒者ではなく、仏教徒を大量に活用したりすれば、中国からの圧力は？

私は本作の鑑賞を契機に「大蔵経」について多くの資料を集めて学んだが、大蔵経（一切経）とは、仏陀の死後、仏陀が説いたものをまとめた仏典や経典を集大成した叢書のことだ。大蔵経は①僧としての生活規律を説いた「律蔵」、②説教を述べた「経蔵」、③それらの解釈をした「論蔵」の三蔵から構成されている。また、大蔵経には、その書かれた言語に基づき、大別して「パーリー語三蔵」、「チベット大蔵経」、「漢訳大蔵経」という3系列のものが存在するらしい。なるほど、なるほど。このように勉強してみると、仏教における大蔵経はさしずめキリスト教における聖書のようなもの・・・？

■□■表意文字 vs 表音文字。世宗が目指した文字は？■□■

宮中に学問研究所として「集賢殿」をつくり、若く優秀な儒学者や官僚を養成した世宗は、集賢殿の学士と共に広い分野に及ぶ編纂事業を主導し、儒学や様々な文化・技術を振興した。したがって、誰でも容易に学べ、書くことができる朝鮮独自の文字をつくりたいと考えたのはその延長線だが、これはとてつもなく困難な作業だった。

文字には表意文字と表音文字があり、漢字は典型的な表意文字、ハングルは典型的な表音文字だ。世宗が目指したのは、誰でも容易に学べ、書くことができる朝鮮独自の文字をつくることだったが、そのためには一体何をどうすればいいの？そこで登場し、世宗に協力することになったのが仏教徒のシンミだが、そこでは彼が大蔵経に通じていたことが大

いに寄与するのでそれに注目！

私は中国語の勉強を一生懸命やっているが、そこで何より難しいのが発音。とりわけ、母音の聞き分けが難しいが、本作を観ていると、ハングルを創造するについてシンミやそのスタッフがその点でいかに苦勞したかがよくわかる。ハングルの構造について解説した本はたくさんあるが、本作を観れば、どんな意図でハングルの創造が進められ、どんな苦勞の末にそれが完成したのかがよくわかるので興味深い。ハングルを日常的に使っている韓国人はもとより、語学に興味を持っている人は本作必見！

もっとも、1446年に訓民正音は完成したものの、その時点では世宗の体力は限界に近づいていたうえ、世宗とシンミの双方を支え、協力していた王妃も死亡。このまま世宗が死亡すれば、仏教に反発し、訓民正音にも反対している儒教派の大臣や官僚たちが訓民正音を廃止することは確実だ。そんな時代状況だったにもかかわらず、訓民正音が生き延び、ハングルが現在のような常用語になったのは一体なぜ？それを本作を鑑賞する中でしっかり勉強したい。

2021（令和3）年4月12日記